

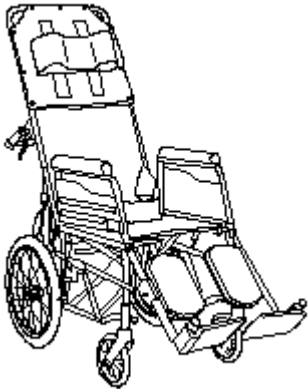


車椅子の主な名称(型式)及び付属品の説明

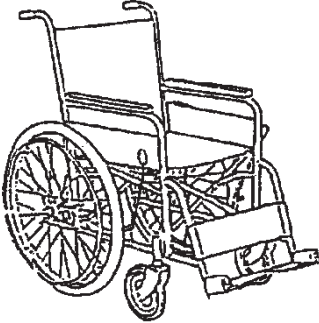


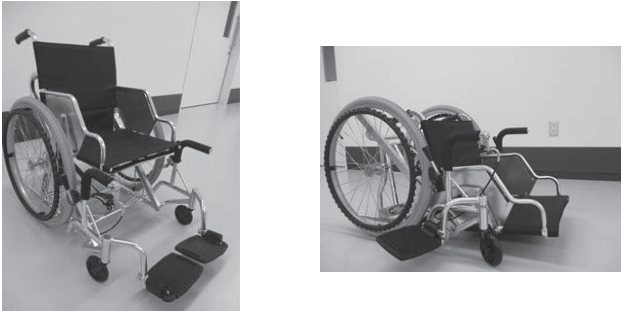
車椅子とは、使用者自身又は介助者が駆動する移動用の車輪付機器であって、JIS T 9201-2016 に定める構造を有するものです。

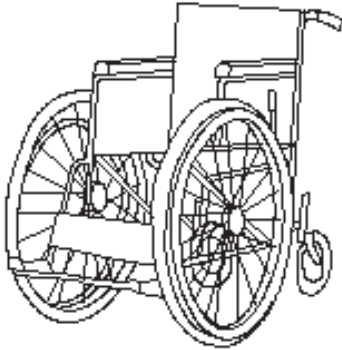
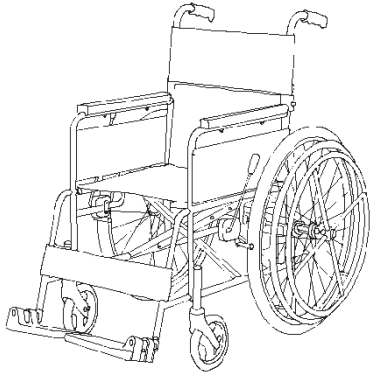
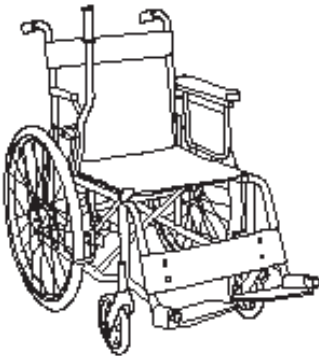
本体価格及び加算要素価格（機構加算、構造部品加算、付属品）より、それぞれ必要な要素・機構・部品を選択し、組み合わせて製作されたモジュラー式を基本とします。

オーダーメイド式は身体の状態及び障害の程度等によりモジュラー式では身体機能の補完が出来ない場合、レディメイド式は既製品の機能により身体機能の補完が可能な場合とします。

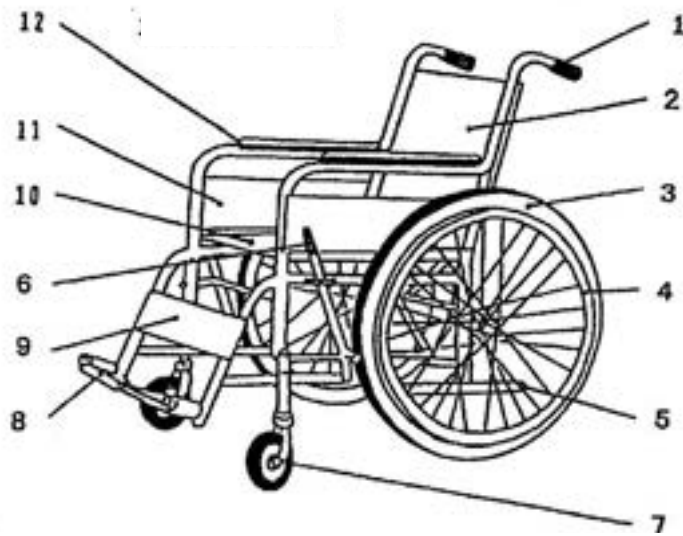
名 称	機 能 や 特 徴
<p>車椅子 介助用 (旧:手押し型車椅子 A)</p> 	<p>介助者が後方から押して移動するハンドリムを装備しない車椅子です。</p> <p>自力で車椅子を操作できない方が対象で、介助用車椅子ともいわれます。足で車椅子を駆動する方も使用します。</p> <p>狭い家の中で使用する場合には、車輪を手で駆動して自走する方もいます。後輪は中車輪が多いですが、使用環境などから大車輪を取り付けることがあります。</p>
<p>車椅子 介助用 バギー形 (旧:手押し型車椅子 B)</p> 	<p>すべての車輪がキャスタ(小車輪)の介助用車椅子です。バギータイプがこれに当り、軽くコンパクトにたためます。</p> <p>座と背が連続するシートで構成され、体が小さいため通常の車椅子が適合しない児童や、臀部を包み込むように深く腰掛けることで筋緊張が低下する方などが対象です。</p>

名 称	機 能 や 特 徴
<p>車椅子 介助用 リクライニング機構 (旧:リクライニング式 手押し型 車椅子)</p> 	<p>背もたれの角度を変えることができるハンドリムのない介助用車椅子です。</p> <p>リクライニング機構を持つため、車輪は背もたれのパイプより後方に付き、全長が長く、重くなります。後方水平位まで背もたれを倒せるものをフルリクライニングと呼びます。</p> <p>起立性低血圧がある方、座位が長時間保てない方、頸部が不安定な方などが対象です。</p>
<p>車椅子 介助用 ティルト機構 (旧:ティルト式手押し型車椅子)</p> 	<p>座面と背もたれが一定の角度を維持した状態で角度を変えることができる介助用車椅子です。</p> <p>脳性麻痺、頸髄損傷、進行性疾患等による四肢麻痺や関節拘縮等により座位保持が困難な方であって、自力で姿勢変換が困難な方が対象です。</p>
<p>車椅子 介助用 ティルト・リクライニング機構 (旧:リクライニング・ティルト式手押し型車椅子)</p> 	<p>背もたれの角度を変えることができる機構（リクライニング機構）と座面と背もたれが一定の角度を維持した状態で角度を変えることができる機構（ティルト機構）を併せ持つ介助用車椅子です。</p> <p>*対象例については、リクライニング機構及びティルト機構車椅子を参照してください。</p>

名 称	機 能 や 特 徴
<p>車椅子 自走用 (旧:普通型車椅子)</p> 	<p>後輪の大車輪にハンドリムを装備し、両手で操作する車椅子です。 義肢や装具など他の補装具を用いても移動が困難であり、上肢でのハンドリム操作による自走が可能な方が対象です。</p>
<p>車椅子 自走用 リクライニング機構 (旧:リクライニング式普通型車椅子)</p>	<p>車椅子介助用リクライニング機構と同様ですが、後輪はハンドリム付きの大車輪で、自走が可能な車椅子です。</p>
<p>車椅子 自走用 ティルト機構 (旧:ティルト式普通型車椅子)</p> 	<p>車椅子 介助用 ティルト機構と同様の機構を持ち、後輪はハンドリム付きの大車輪で、自走が可能な車椅子です。</p>
<p>車椅子 自走用 リクライニング・ティルト機構 (旧:リクライニング・ティルト式普通型車椅子)</p> 	<p>車椅子 介助用 リクライニング・ティルト機構と同様の機構を持ち、後輪はハンドリム付きの大車輪で、ハンドリム操作により自走が可能な車椅子です。</p>
<p>車椅子 自走用 リフト機構 (旧:手動リフト式普通型車椅子)</p> 	<p>ハンドリムで自走し、グリップ操作により座席の昇降が可能な車椅子です。自走とグリップ操作を行うための上肢筋力と関節可動域が必要です。 座面の昇降機構を用いて、自力での移乗が可能な方などが対象です。 重い、大きい、折りたためないなどの特徴があります。体重が50～70kgの人に適しています。</p>

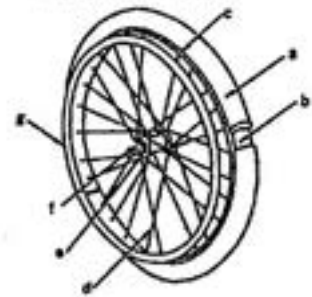
名 称	機 能 や 特 徴
<p>車椅子 自走用 前方大車輪 (旧:前方大車輪型)</p> 	<p>前輪駆動式(トラベラー型)ともいい、前方に大車輪がある車椅子です。</p> <p>脊柱変形のため、前方に大車輪がないと手が届かない方などが対象です。</p> <p>前輪が大車輪のためベッドなどに近づくことが難しい、キャストが後方にあるため操縦が難しいなどの特徴があります。</p> <p>ティルト機構、リクライニング機構を持つ機種もあります。</p>
<p>車椅子 自走用 片手駆動の構造 (旧:片手駆動型)</p> 	<p>片側にハンドリムが二重に付き、片手で操作する車椅子です。</p> <p>直進するときは2本のハンドリムを同時に駆動し、曲がる時は内側か外側のハンドリムのみを駆動します。</p> <p>屋外の傾斜地や凹凸のある場所での操作は困難で、屋内での使用となります。</p> <p>脳性麻痺やポリオなどで一側上肢のみの実用的使用が可能で、片手での自走が可能な方が対象です。</p> <p>ティルト機構、リクライニング機構を持つ機種もあります。</p>
<p>車椅子 自走用 レバー駆動の構造 (旧:レバー駆動型)</p> 	<p>駆動と方向変換を1本のレバー操作で行う車椅子です。</p> <p>進みたい方向に向け、レバーを上下に動かし走行します。</p> <p>屋内などの平坦な場所以外での駆動は困難です。</p> <p>片手駆動型と同様に、一側上肢のみの実用的使用が可能で、レバー操作による自走が可能な方が対象です。</p>

車椅子の各部の名称



- | | | |
|----|-----------|------------------------------------|
| 1 | ハンドグリップ | 介助者用押し手ハンドル |
| 2 | バックサポート | 背もたれ
バックサポート延長、背折れの構造等がある |
| 3 | 駆動輪・主輪 | 大車輪(後輪) |
| 4 | ハンドリム | 車椅子を自走するとき使用する大車輪の内側にある輪 |
| 5 | ティッピングレバー | 段差を超えるときなど、介助者がキャスター上げを行うために使用する部品 |
| 6 | ブレーキ | 車輪を固定するために使用する部品 |
| 7 | キャスタ | 前輪、360度回転する自在輪 |
| 8 | フットサポート | 足台 |
| 9 | レッグサポート | 下肢が後方に落下しないように支えるもの |
| 10 | シート | 座るところ |
| 11 | サイドガード | 衣服が車輪に巻き込まれないようにするもの |
| 12 | アームサポート | 肘を支えるもの |

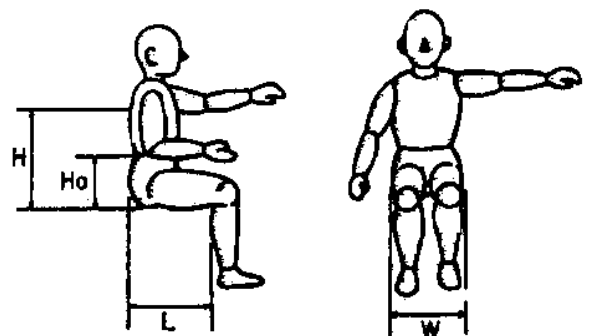
駆動輪各部の名称



- a. タイヤ
- b. チューブ
- c. リーム
- d. スポーク
- e. ハブ
- f. ハブシャフト(車軸)
- g. ハンドリム

身体値と車椅子寸法との関係

車椅子寸法	身体値との関係
座幅	W (腰幅) + 5 cm
座長	L (背面～膝窩長) - 5 cm
背もたれ高	H (座面～腋窩長) - 10 cm
肘当て高	H _o (座面～肘高) + 2 cm



※上記は一般的な採寸方法で、実際には障害状況や環境要因等を考慮して寸法を決定する。

車椅子の構造部品 付属品

